

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ ふるさと納税について

市内には多くの公共施設がありますが、その半数以上が建設から30年以上経過しています。将来的にこれらの施設を更新していく必要がありますが、人口減少や高齢化に伴い税収が伸び悩む中、これらを賄う財源の確保は頭の痛い問題です。また、人口減少をどう食い止めるか。こうしたまちづくりの基本にかかわる財源の確保についても、同様に、ふるさとの未来のために自ら考え、汗を流すことが求められています。この4月から「企業版ふるさと納税」が始まり、これまでの損金算入に加え、さらに寄附額の30%が税額控除されることになりました。先日、全国市長会で上京の折、都内の本社を担当の職員と一緒に回りましたが、「まだまだ頑張らねば。」これが実感でした。一方、「個人版ふるさと納税」では返礼品のお届けが始まりました。市外から通勤しているみなさん、あなたも「ふるさと納税」にご協力していただけませんか。

■ 厚狭地区複合施設の近況

厚狭の複合施設が完成して4か月が経過しました。これまでの保健センターに加え、新設の総合事務所・図書館・公民館・体育館を旧総合事務所跡の1か所に複合化した施設ですが、利用者の評判も大変良く、苦勞した職員も喜んでいますが、たとえば厚狭図書館では、昨年度と比較すると、来館者数で約80%、貸出数で約20%も伸びています。恒例の中庭でのふるさと納涼祭も楽しみです。

■ 山陽オートレース場から

パラサイクリングのリオ五輪代表合宿が行われ、

市民の歓迎に監督以下、選手のみなさん大変喜んでくれました。「次の東京五輪に向けても、また合宿に来ます。」監督の嬉しい別れのご挨拶でした。

■ 御船町への支援を続けています

本市は熊本地震直後、下水道調査、被災宅地危険判定、給水活動、検索救助のため、関係職員を緊急派遣しました。山口県は熊本地震で被災した市町村のうち御船町への支援を割り当てられ、本市からも、5月の連休からは2名1組で派遣を続けており、派遣職員も貴重な体験を得たようです。たとえば、

① 支援物資配給所に従事した職員

- 食料の賞味期限を考慮しつつ、同じメニューを続けて出さない工夫が必要
- 数百人が短時間に受け取れるよう配付順序や職員配置が必要
- 高齢者用のオムツが多く必要

② 避難所運営に従事した職員

- 避難所内の区割りの設置
- 衛生管理の徹底
- 避難者の人数・氏名などの把握
- 不審者への対応
- みんなの健康管理に配慮

③ リ災証明書発行に従事した職員

- 手続きのマニュアルが不可欠
- 住民への周知方法の工夫が必要
- リ災証明書の申請書に添付する写真の撮り方を予め十分指導することが必要

こうした経験は、本市での万一の場合に役立ててもらえそうです。